

子ども 体験新喜劇 ワークショップ

今回もみんなが持っている笑いの才能を引き出して発表会で楽しく演じよう!今年は「オバケ」の話!かわいいゾンビから、ユニークな怪人まで いろいろ演じちゃおう!きっと好きになれるはず!

3日間
楽しく
演じよう!



ビックボイス☆とっち



動画も配信しています。
教文HPをご覧ください。

オバケが出ることで有名な某ホテル……宿泊客が来なくなり、支配人や従業員たちは頭を悩ませます。そこにTV局がやってきて大騒動に!そして、アッと驚く?うれしいラストシーンへと……。発表会の台本を初日に渡すよ。みんなの役を決めたあと、発表会の日までその台本で楽しくおけいこ!しかも札幌よしものお笑い芸人の皆さんと一緒にあって笑いのテクニックを学ぶことができるんだ!

保護者の方へ

今回のワークショップでは、それぞれの個性を大切に、アドリブ重視の自由な雰囲気の中で、子どもたちの魅力を引き出しながら進めます。喜劇ならではの笑いと言愁を交えた、体験新喜劇の新たな可能性に迫ります。

講師

すながわ かずしげ
砂川 一茂 (放送作家)

1959年、大阪市出身。「よしものと新喜劇」創成期に活躍した作家、竹本浩三氏(吉本興業文芸顧問)に師事。舞台喜劇を学ぶ。38歳で札幌に移住。2008年には札幌市教育文化会館主催の市民喜劇団「教文13丁目笑劇一座」の講師になる。現在、札幌～神戸・大阪などを中心に阪神・淡路大震災の教訓から「笑い」と癒しをテーマにした、誰にでも簡単に参加出来る「体験新喜劇」の普及に取り組む。NSC札幌校講師。共著に「ユーモアの即興から生まれる表現の創発～発達障害・新喜劇・ノリツコミ～」(赤木和重 編著)

かわむら けんじ
川村 賢司 (映像ディレクター)

1983年札幌市生まれ。2007年札幌市教育文化会館のお笑いワークショップ「笑学校」を受講。放送作家・砂川一茂と出会う。2008年教文13丁目笑劇一座に参加。以降制作・脚本・端役出演などで本公演や福祉施設への出張公演に多数参加。現在、市内の映像制作会社にてテレビ番組やCMの制作にディレクターとして従事している。

2026.1.6火・9金・10土 13:00～16:00

会場

札幌市教育文化会館 研修室401

募集人数 15名(応募者多数の場合、抽選)

対象 小学1年生～中学3年生
(保護者・きょうだいの見学可)

参加条件 3日間参加できる方

受講料 3日間で2,000円(保険料込)

申込 11月1日(土)～30日(日)

申し込み方法 右の専用申し込みフォームからお申し込みください

申込フォーム



■最終日にはミニ発表会(15時頃を予定)を行いますので、ぜひご鑑賞ください。(事前予約不要)■当館にはお客様用の駐車場がございますので、近隣の有料駐車場をご利用ください。■ワークショップ実施中、報道あるいは記録用のカメラが入ります。また、撮影した写真・ビデオは主催者・講師の広報および公開アーカイブとして使用いたします。■主催者が定める規定による対象者を除き変更・払い戻しはいたしません。

お問い合わせ:札幌市教育文化会館(札幌市芸術財団) TEL:011-271-5822(事業課 9:00～17:00 休館日/第2・第4月曜日(祝日の場合は翌営業日)、年末年始(12/29～1/3)のをのぞく)
主催:札幌市教育文化会館(札幌市芸術文化財団) 後援:札幌市、札幌市教育委員会

札幌市教育文化会館
Sapporo Education and Culture Hall

〒060-0001 札幌市中央区北1条西13丁目

WEB <https://www.kyobun.org> X f i g @kyobunjigyoinfo

教育文化会館

